

## 第4回マレーシア 研修生歓迎会

管理本部 石川 実

当社のマレーシア研修生受入は、今回で4回目となります。8月14日には過去3回の研修生のうち8名が集まり、第1回のOB会が開かれたという知らせも無い込んできました。第4回の研修生6名は、今年の5月15日に来日し、オイスカ能力開発専門学校で3ヶ月の日本語研修をつんで8月23日より当社で一週間のオリエンテーションをした後、8月30日より(株)フィールドサービス、イワレキ、東海アーバン開発(株)機材部にて9ヶ月の技術研修と2年間の技能実習に入りました。アズマン、アダム、ハリヤント、アスリ、ファファン、アシュラフの6名全員が20歳から22歳と若く、校長先生の息子さんだったり、両親共社長さんだったり、家族が22名いたりと話しを聞くたびに驚かされる事も多い中、語学力は前回の研修生に

もまして吸収の早いのは驚かされました。

8月25日にはオイスカ静岡岡部支部の横井副会長、オイスカ浜松支局の久保会長、オイスカ高等学校の藤崎校長をはじめ大勢の来賓の方々をお招きして、研修生の歓迎会も行われました。その席で何人かの研修生は、マレーシアに帰国してから会社を立ち上げ社長となって、マレーシアの発展に尽くしたいという志を語ってくれました。言葉も文化も気候も違う日本という国で、3年間を過ごす彼らを暖かく見守って上げて下さい。



## 環境・省エネ 商品 燃費向上・排出ガス低減装置 「インプルウエーブ」

### 販売価格

例 ガソリン車

1000cc〜2000cc用  
60900円(消費税等含む)

### 取付費

15750円(消費税等含む)

### 特徴

- 一、燃費の削減  
平均10〜20%以上を実証
  - 二、排気ガスのクリーン化  
ディーゼル車黒煙60%以上削減
  - 三、加速性能アップ  
完全燃焼によりパワーアップ
- 特許出願No.平一・二七五三二  
問い合わせ先 省エネ事業部



## 地球環境再生植林フォーラム 2004に参加して

土木本部 加藤保実

去る7月30日から8月5日までの7日間、ロータリークラブ・オイスカ共同事業の「地球環境再生植林フォーラム」に参加しました。場所はフィリピンのネグロス島。植林フォーラムについては以前から聞いてはいましたが、私自身は「何故我々日本人が行って木を植えなければならないのか」という疑問を抱いておりました。

7月30日の早朝に浜松を立ち、成田からマニラ空港を経由し、フィリピン国内線でバナイ島イロイロ市へ向かったのですが、国際線、国内線ともに遅れ、イロイロの空港へ到着したときはもう夜の7時をまわっていて、辺りはすっかり暗くなっていました。空港まで出迎えてくれた現地ロータリークラブのメンバーの

熱烈的な歓迎を受けました。

植林活動ですが、バナイ島のアホイの山とネグロス島サガイ市内で3ヶ所の合計4ヶ所行いました。アホイの山ではアカシアマンギュームの苗を現地の大学生とともに植えめました。私は赤茶けた地肌見える禿げ



山を想像していたのですが、伐採されてから何年か経っているのか、下草が表面を覆っていました。また、向かい側の斜面には昨年日本の大学生が植えた苗木が育ち緑の葉を茂らせていました。表土は肥沃であり、これらが雨水で流出すれば大変なことになると容易に想像できました。

サガイ市では、まずカンランウン山(高い山)が望めるナビガ山にて植林を行い。次は国道から十数キロ山に入ったハウテア小学校にてマホガニーの苗を植樹、さらに離島のモロカボック島へ小型船で渡りマングローブを植えました。マングローブは海岸線に植えるため、引潮の時間にあわせ朝早く出発したのですが、到着した時にはすでに潮が満ち始め最初はひざぐらいまでだった水位が植え終わるころには腰の高さまでなっていました。一緒に植えていた子供達は制服姿でしたが、そんなことは気にする様子もなく胸近くまで水に浸かりながらマングローブを植えていました。



今回の植林活動中一緒に植林を行ったフィリピンの子供達は、素朴でとても無邪気であり、物にあふれたレジャーゲームで遊ぶ日本の子供より「子供らしい」と思いました。私は、地球環境を守るために、木を植えることの大切さを、もっと教えなければいけないと痛感いたしました。

